

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	4
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	8
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介	9

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト「小さな自然再生事例集 II(仮称)」掲載の取組事例を募集します

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)では、市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取組める「小さな自然再生」に関わる事例集を 2015 年に発行しました。

今年度は、この事例集の続編として、新規の事例を盛り込んだ「小さな自然再生事例集 II (仮称)」を制作中です。

そこで、事例集 II で新規に紹介させて頂く『取組事例』を募集致します。小さな自然再生に実践的に関わってこられた全国の皆様から、活動の目的や歩み、施工や維持管理の工夫や効果などの生の情報をお寄せいただければと思います。下記募集要項をご確認の上、ご応募お待ちしております。

<実施体制>

- 編集・制作：「小さな自然再生」研究会
- 各事例執筆：小さな自然再生の担い手の皆さま
- 発行／制作事務局：

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

※2020 年 2 月頃に発行予定



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

【募集要項】

事例集 II で紹介する水辺の小さな自然再生に関わる **取組事例（兼：執筆者）** を募集します。

※募集案内チラシはこちらから→ <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1090.html>

【応募方法】 氏名、所属、連絡先（住所・電話・e-mail）とともに、下記申込先まで E メールにてご応募下さい。折り返し、掲載内容等を事務局より調整させて頂き、取組事例をご記入頂くための“取組事例テンプレート”様式をお送りします。（A3 サイズ・2 ページ）

【応募期間】 2019 年 9 月 20 日（金）まで

【備考】 謝礼等の支給はありません。発行後に事例集 5 部を謹呈します。

【応募申込み・お問い合わせ】

（応募申込み先） E-mail: info@a-rr.net

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)事務局 担当： 澤田みつ子・和田彰

〒104-0033 東京都中央区新川 1-17-24 NMF 茅場町ビル 7F（公財）リバーフロント研究所内

Tel: 03-6228-3865 E-mail: info@a-rr.net Website: <http://www.a-rr.net/jp/>

小さな自然再生普及プロジェクトー「小さな自然再生事例集 II(仮称)」掲載の取組事例を募集します

取組事例テンプレート（見本）：応募後に事務局からデータをお送りします（応募方法は P1）

※赤字は原稿執筆に際しての留意点やヒントです。赤字部分に原稿を直接上書きして下さい。また、編集は事務局で行いますので、各テーマ（①～⑦）の分量は、できるだけ本テンプレートの枠内に収めて記述してください。

■タイトル（キャッチコピー）

25文字以内（3秒で読める長さ）で、読者を引き付けるタイトルを付けて下さい。なお、論文や報告書のタイトル（「・・・工法」「・・・事業」）ではなく、新聞広告のコピー（見出し）などを参考に考えてみてください。

■代表的な1枚の写真

- 活動を象徴する、特に紹介したい代表的な写真1枚を提供下さい。冒頭で大きく掲載します。
- 選定された1枚の写真（画像）は、本原稿ファイルとともにメールで送付して下さい。

■リード文（簡潔で魅力的な紹介文：100文字程度）

100文字程度で取組の概要を、このリード文を読むだけで何に取組んだかがわかるように、また読者が「面白そう」「読んでみよう」と感じてもらえるような言葉を用いてご紹介下さい。なお、「です」、「ます」調で作成願います。

①基本的な情報（プロフィール）

・河川名： ○○川水系○○川 ・場所： ○○県○○市
・執筆者： 氏名

②経緯・目的

●活動の流れ（フロー図）と関連させて
右ページ上の「活動の流れ（フロー図）」と関連させて、活動のきっかけ、これまでの経緯、目的等を分かり易く紹介して下さい。

●「小見出し」と「概要文章」の簡易書きで
キャッチーな小見出しを付けた後、紹介頂く内容を箇条書きに記述して下さい。なお、小見出しは事務局で考えることも可能ですので、その場合は「小見出し」なしで簡易書きで記載頂いて結構です。

③活動のながれ（フロー図）

企画段階（構想、きっかけ）から現在までの出来事をフローチャートで整理してください。見易さを考慮し5～8段階ぐらいに整理してください。

■経緯・目的（または上記フロー図）を補足する写真数枚

経緯や上記フローを補足する写真数枚（2～4枚）とキャプションを以下に貼り付けてください。

例えば

- 検討会等の写真
- 施工前・施工中・施工直後・施工後写真 等

キャプション

例えば

- 検討会等の写真
- 施工前・施工中・施工直後・施工後写真 等

キャプション

例えば

- 検討会等の写真
- 施工前・施工中・施工直後・施工後写真 等

キャプション

④実施体制・スキーム

・どのような得意技を持った人・組織、どんな立場の人がどのような役割を果たしたかを図で表現して右に貼り付けて下さい。

・組織（NPO、市民、専門家、行政、大学、小学校等）と役割（設計、施工、維持管理）を描き、それらの関係を線で結んで示していただけると有難いです。

■実施体制・スキーム図

④工法の説明・工夫した点

●土木的な工夫、生態学的な工夫等
土木的な工夫（設計、構築、施工）や生態学的な工夫（対象生物、どのような効果を期待して）を紹介して下さい。

●調達する写真や絵図
写真（現場作業の様子、対象生物の写真等）や図（関係者で作成・共有したポスター絵等）を掲載願います。

例えば

- 現場作業の様子等
- 土木的工夫のイメージ図等
- 対象生物の写真等
- その他、工夫や課題が分かる写真や図等

キャプション

例えば

- 現場作業の様子等
- 土木的工夫のイメージ図等
- 対象生物の写真等
- その他、工夫や課題が分かる写真や図等

キャプション

⑤使用材料・工具・造り方

・使用材料や工事で用いた工具を写真と共に紹介して下さい。

・使用材料の調達方法の工夫（ホームセンターで購入可、河川工事で余った資材を活用等々）があればご紹介ください。

・造り方が分かる写真（工事の手順等）や図面（平面図、横断面、縦断面図等）があれば掲載願います。

例えば

- 使用材料が分かる写真
- 使用工具が分かる写真
- 造り方が分かる図面等

キャプション

例えば

- 使用材料が分かる写真
- 使用工具が分かる写真
- 造り方が分かる図面等

キャプション

⑤施工後の維持管理や利活用の工夫

●完成後の維持管理や利活用の工夫
維持管理の視点での工夫（労力軽減、地域参加促進 etc.）や、フィールドを活用していく上での工夫（環境学習プログラム展開、安全看板設置 etc.）等を紹介して下さい。

●調達する写真や絵図
上記に関連する写真や図等を掲載願います。

例えば

- 現場作業の様子等
- 土木的工夫のイメージ図等
- 対象生物の写真等
- その他、工夫や課題が分かる写真や図等

キャプション

⑦現場のキーパーソン

・氏名： ○○○○さん
・所属等： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

取組の中で、中心的な、あるいはポイントとなる場面で力を発揮した人をあげてください。（一人でも複数で可。執筆者ご自身でももちろん可。）
その方の「独自の視点」「すごい技」「こだわりの道具」など、魅力や面白さも含めてご紹介下さい。

キーパーソンの写真

⑧効果（一次効果・二次効果）

●再生目標に対しての直接効果（一次効果）や、地域へのインパクト、技術の向上、関係者の連携強化等々の波及的な効果（二次効果）を紹介して下さい。

●効果が分かる写真や図等があれば掲載願います。

■効果がわかる写真、図表 等

キャプション

■効果がわかる写真、図表 等

キャプション

(JRRN 事務局・澤田みづ子)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

JRRN 国際活動 – 「第 16 回 ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」開催案内

JRRN が事務局を担うアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の「第 16 回 ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」(以下、ARRN 国際フォーラム) 開催まで、2 カ月を切りました。

今年の ARRN 国際フォーラムは、10月下旬にオーストラリア・ブリスベンで開催される第 22 回国際河川シンポジウム (22nd International Riversymposium) の特別セッション“**Asian River Restoration Network (ARRN)**”として、Brisbane Convention & Exhibition Centre にて開催します。

本セッションでは、「川づくり～再生から強靱化まで」をテーマに、水辺・流域再生に関連する国内外の専門家が集い、10 本の研究発表を予定しています。参加地域それぞれの水資源政策や市民参加・協働による河川再生の最新の取り組みや課題等の発表を通じ、活発な意見交換や技術の交流・向上を図ることが期待されます。

また、ARRN 国際フォーラムと合わせて、ARRN の理事会に相当する ARRN 運営会議や現地視察等も行い、ARRN メンバーでの技術交流を深めます。これらの行事報告は、後日、ニュースレターやウェブサイトにて発信させていただきます。



第 15 回 ARRN 国際フォーラム in 東京 (昨年) 会場風景

第 22 回国際河川シンポジウム

- 開催期間：2019 年 10 月 20 (日) -24 日 (木)
- 主催：国際河川財団 (International Riverfoundation)
- 場所 オーストラリア国ブリスベン
Brisbane Convention & Exhibition Centre
- ウェブページ：<https://riversymposium.com/>



第16回 ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム

- (1) 日時：2019年10月22日 (火) 13:30-17:00
- (2) 会場：Plaza Auditorium
(Brisbane Convention & Exhibition Centre)
- (3) 主催：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- (4) テーマ：川づくり～再生から強靱化まで
- (5) プログラム：

13:30-14:45 研究発表 計5発表

14:45-15:00 総合討論

15:00-15:30 休憩

15:30-16:45 研究発表 計5発表

16:45-17:00 総合討論

17:00 閉会挨拶

<コーディネーター>

Chair: Suk Hwan Jang 教授

(前 ARRN 会長、KRRN 会長、韓国 Daejin 大学)

INTERNATIONAL RiverFoundation
ARRN
22nd International Riversymposium
(Oct. 19-24, 2019 Brisbane, Australia)

**SPECIAL SESSION
of Asian River
Restoration
Network (ARRN)**

Concurrently "16th ARRN's
International Forum on
Waterfront and Watershed
Restoration"

Date: Tuesday,
22 October 2019
13:30-15:00,
15:30-17:00
Venue: Plaza
Auditorium(Brisbane
Convention & Exhibition
Centre)
Organizer: Asian River
Restoration Network
(ARRN)

Registration
Participants are required to register
International Riversymposium

「第 16 回 ARRN 国際フォーラム」英語版案内チラシ
(全 10 発表のプログラム含む)

URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1086.html>
(JRRN 事務局・佐治史)

水辺からのメッセージ No.124

岡村幸二 (JRRN 会員)

川を飛び越える橋： 緑の山並に付かず離れず 河川を斜めに渡る斜張橋



撮影：2019 年 7 月（大阪府池田市・新猪名川大橋）

◆川を斜めに突っ切る橋

住宅市街地に隣接するため、長さ 400m の斜張橋の主塔は、景観的に安定感があって耐震性にも優れた逆 Y 字形 RC 構造を採用しています。隣接する五月山の緑との調和もそれほど違和感がないようです。

◆巨大な橋の脇に自然の山

猪名川の左岸側すぐには市民の憩いの場所である五月山公園があります。山の中腹には複数の展望台があり、池田市街地と猪名川に架かる長大橋「ビッグハープ」が立体模型のように眺められます。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーは JRRN ホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

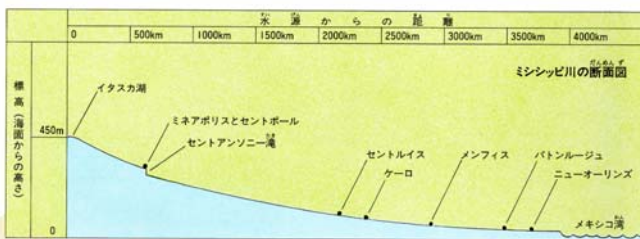
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

河川書の探求(17)

アメリカを創りだしたミシシッピ川の偉大さ

古賀邦雄・古賀河川図書館 (JRRN 会員)

ンツー州、ルイジアナ州とほぼ一貫して州境を形成しながら南下する。オハイオ州との合流地点のカイロ市を境に上下流を区別する。」と記している。

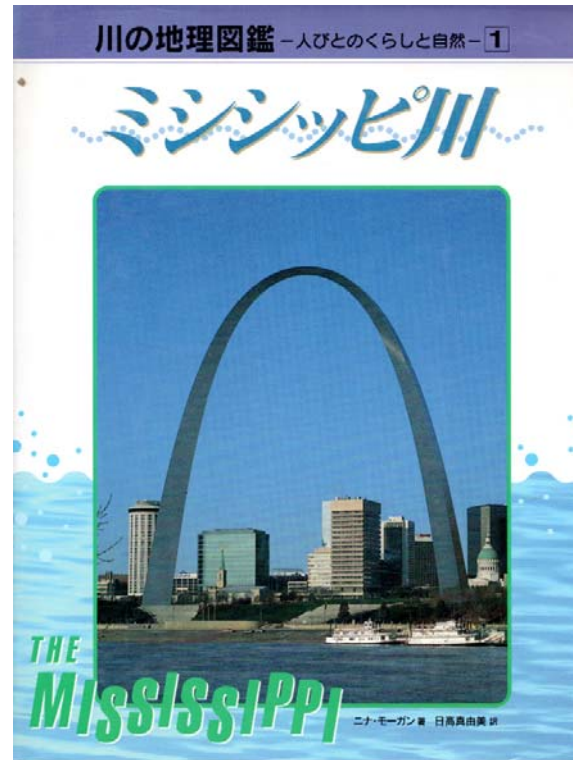


ミシシッピ川の流域断面図。高度差があまりなく、ゆったりと流れている。

1. ミシシッピ川の流れ

『全世界の河川事典』(丸善)によれば、「ミシシッピ川は、ミネソタ州北部のイタスカ湖に端を発し、米国をほぼ南北に縦断し、ルイジアナ州ニューオーリンズ市付近にてメキシコ湾に注ぐ。長さ 3,780km、水系全体の流域面積 3,250,000km²。

上流部にあたるミズーリ川(長さ 4,130km)、イエローストーン川(長さ 1,080km)と合わせ、ミズーリ川のほか、ミネソタ川、ウィスコンシン川、イリノイ川、オハイオ川、アーカンザス川などが水系を構成する主要な支川である。源から河川にかけて、左岸にウィスコンシン州、イリノイ州、ケンタッキー州、テネシー州、ミシシッピ州、右岸にミネソタ州、アイオワ州、ミズーリ州、アーカ



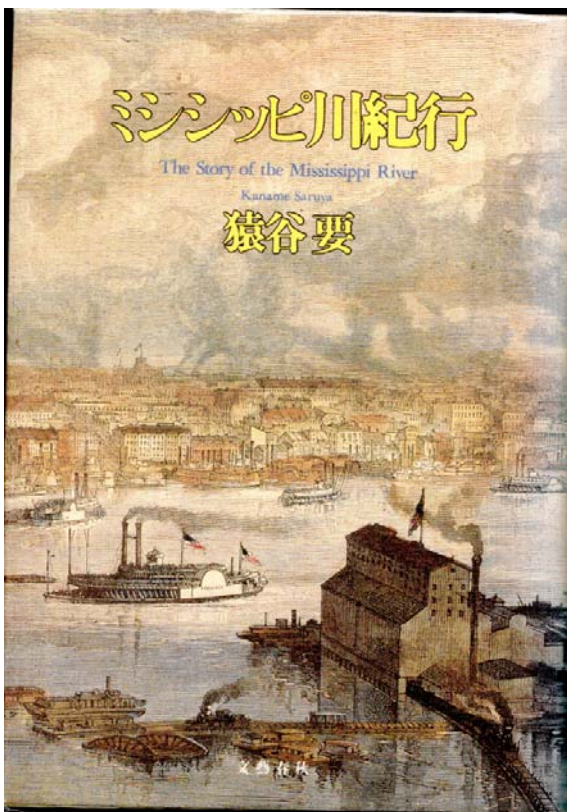
ニナ・モーガン著『ミシシッピ川』(偕成社・1995 年)により、ミシシッピ川の上流から河口まで追ってみる。上流は、渓谷になっており、ミネソタ川やアイオワ川が合流すると、水かさが増え、川幅が大きく広がる。流域面積は米国の国土の約 40%を占め、米国の 31 州とカナダの 2 州が含まれる。海拔 450m イタスコ湖から北東へ流れ、やがて南へ曲がり、ミネソタ州のセントポールの近くで、高さ 22m もあるセントアンソニー滝を落下する。

セントポールを過ぎると、次第に川幅が広くなり、石灰岩の崖の間を流れ、川の中に 500 程の小島がある。川はなだらかな丘の続く大草原と湿地帯に入る。この辺りがコーンベルト(トウモロコシ地帯)と呼ばれる穀倉地帯である。やがて、泥の川であるミズーリ川と合流する。セントルイスのあたりで川は広くゆったりと流れる。セントルイスの近くで育ったマーク・トウェイン(1835 年～1910 年)は、毎日のようにミシシッピ川の豊かな流れや蒸気船を観ながら、『トム・ソーヤの冒険』、『ハuckleberry フィンの冒険』を描き出す。

セントルイスから下ると、南部に入りケーロの町を過ぎると洪水を防ぐための堤防が 20m を越える所もある。綿花の町メンフィスは、南北戦争でイギリスからの綿花などの物資が輸入できなくなり、米国で綿花栽培が始まったところである。沢山の奴隷によって栽培。曲がりくねった川を下り、アーカンソーシティーへ、そして、ビックスパークの町では、川の水をコントロールするために、ミシシッピ川流域全体の縮尺模型があり、全てのダム、水路、堤防が示されており、山や小川的位置や土地の高低差が分かる。これはミシシッピ川の治水計画建てるために作られたものである。

河口デルタのニューオーリンズの町は、小さな通りや鉄製のバルコニーのついた古風な家や、カフェや土産物店が並ぶ。ジャズ音楽が生まれた町で、ルイ・アームスロングなどの有名な音楽家が出ている。ニューオーリンズ港は 3 番目に大きな港で、ミシシッピ川無しでは、町の偉大な発展はなかった。

同様に、ジュニア地理としての、スーザン＝ドレルブラウン著『ミシシッピ川』(帝国書院・1987 年)がある。



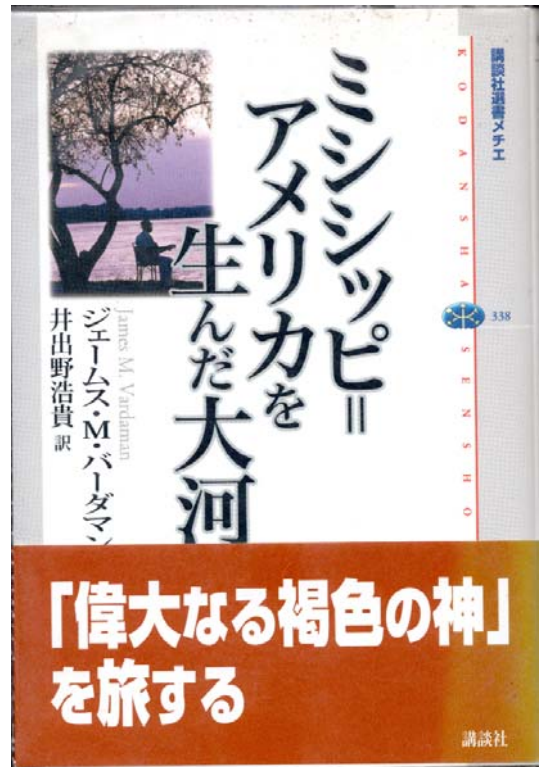
2. ミシシッピ川の旅

猿谷要著『ミシシッピ川紀行』(文藝春秋・1994 年)は、ミシシッピ川河口から各州ごとに遡る旅であり、その州の歴史、文化、社会事情を浮き彫りにする。

ナポレオンはルイジアナの土地に植民地帝国を創る事を試みたが、計画は成功せずに、アメリカへ 1500 万ドルで売り渡した。1803 年にルイジアナはアメリカ領になった。ニューオーリンズの誕生である。この地は、先住民、フランス人、スペイン人、フランス人、アメリカ人という具合に、所有権が変わってきた。そこへアフ

リカやカリブ海周辺から黒人奴隷が連れてこられた。この町は混血の文化の特色を持っているという。

さらにのぼり、南北戦争の古戦場、日系人強制収容所跡、クリントン大統領の故郷、キング牧師の暗殺地メンフィス、ブルースの父ウィリアム・C・ハンディの銅像、エルビス・プレスリーの邸宅がメンフィスの大観光地となっている。さらに、リンカン生地、暴れ川テネシー川の 40 基のダム、トムとハックとジムの世界、イリノイの風土大草原、ミネアポリスとセントポールの双子の都市、源流へ旅をつづけ、再度河口まで戻っている。



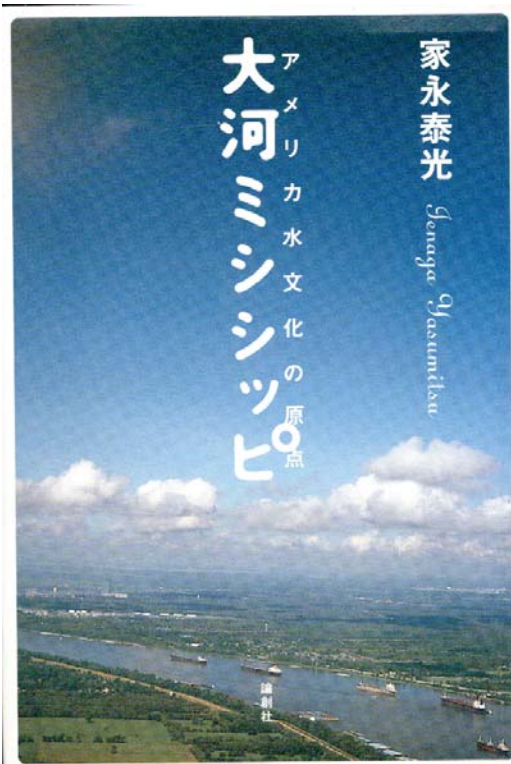
3. ミシシッピ川七つの道

ジェームス・M・バーダマン著『ミシシッピ＝アメリカを生んだ大河』(講談社・2005 年)では、ミシシッピ七つの道として、その意義と効用を強調する。

- ① 探検の道・・・ミシシッピ川の発見、メキシコ湾に到達したラ・サル郷
- ② 輸送の道・・・蒸気動力の導入以前、回転バドルを取りつけるーシュリーブの改良、1865 年 4 月のサルタナ号の爆発事故の最悪の惨事と蒸気船レース、甦った水上交通
- ③ 人が変えた道・・・防壁と閘門、ダムを通過する船団
- ④ 移住と入植と政治の道・・・千載一隅の好機 ニューオーリンズとその周辺を買い取る。黒人たちの逃亡ルートー黒人が北部への逃亡にミシシッピ川が役立った。
- ⑤ 自然の道・・・鳥類の「ミシシッピ飛行経路」、ビーバーの毛皮商品、ミシシッピ流域で良質なボタンとなる貝殻の発見によるイシガイが発見され、ボタン工場が経済の発展を促した。また、「ミシシッピ川にいる」という報酬ー川

から得られる天然資源氷と魚がとれた。氷は食糧を保存するために使用された。魚を木箱に入れ、氷をいれて保存。レジャーとして、釣り人たちのメッカとなる。

- ⑥ 文化の道・・・レイ・アムストロングの船上演奏、デルタでの過酷な環境が生んだブルース、ショーボートーミシシッピ川の黄金時代、フォスターの「おお、スザンナ」の歌は、ゴールドラッシュでカルフォルニアへ殺到した人びとの愛唱歌となる。
- ⑦ 国家の精神的な中心としての道・・・ミシシッピ川は「偉大なる褐色の神」あるという。経済的な屋台骨と同時に「アメリカ人の精神的な中心」となっている。五キロメートルに及ぶ回転画、百川の父である。七つの道をよみながら、ミシシッピ川はアメリカという林檎を貫く「芯」であることが理解できる。



4. ミシシッピ川アメリカ水文化の原点

家永恭光著『大河ミシシッピ』(論創社・2004 年)では、ミシシッピ川をアメリカ水文化ととらえて、次の内容の構成となっている。

①ミシシッピ川流域の自然と文化

上流域－アイタスカ湖からケイロまで、下流域－ケイロから河口まで、インディアン先住民の農耕文化を論じる。

②アメリカの水制度とミシシッピ川

沿岸権・専用権によるアメリカ水法の特徴、ミシシッピ川の大洪水と治水、

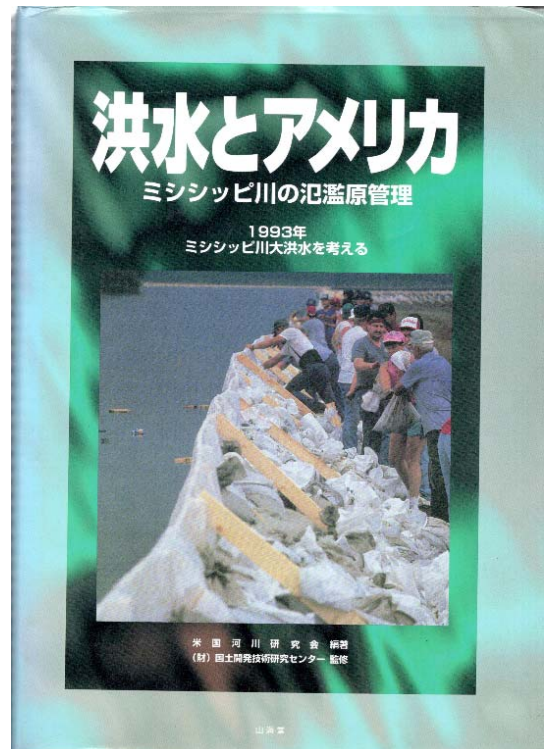
③ミシシッピ川流域の産業発展

南部の米産業の発展、ミシシッピ川流域の稲作展開とブ

ランテーション、ミシシッピ川流域の米産業と農民を論じる。

④ミシシッピ川の水質汚濁と再生の思想

水質汚濁と環境破壊、ミシシッピ川の水質汚濁のメカニズムを論じる。



5. ミシシッピ川の洪水

米国河川研究会編著『洪水とアメリカーミシシッピ川の氾濫原管理ー』(山海堂・平成 6 年)は、1993 年 6 月～8 月にかけて起こった上流域に記録的な大洪水がミシシッピ川を襲った。この水害を契機として、ミシシッピ川上流域には体系的な河川整備がなされていなかったから、ミシシッピ川上流域に対しても下流域同様な統一的治水政策が必要であるとの議論や合わせて、流域全体の観点から環境保全対策を推進することとなった。

洪水の被害は死者 50 名ほど、氾濫面積は 41,000km² に及び米国の本土の面積の 15%超えた。被害は農業堤防の越流、破堤による浸水した農地、標準の出水防禦施設せっちされていなかった都市部を襲った。農地が砂に覆われた。資産被害は 150 億ドルという。

このような洪水対策として、ハード対策とソフト対策が進んだ。関東建設弘済会・土木学会編・発行『1993 年米国ミシシッピ川大洪水調査』(1993 年)がある。

6. おわりに

以上、ミシシッピ川の歴史、文化、経済そして洪水に述べてきたが、ミシシッピ川はアメリカを育て、創りだした偉大な川である。

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2019年8月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ドボ博展示第二弾『川展 日本河川風景二十区分 一國分かれて山河似る一』がオープン



公益社団法人土木学会が運営するオンライン博物館「ドボ博」事務局より、ドボ博展示第二弾『川展 日本河川風景二十区分 一國分かれて山河似る一』オープンのご案内が届きました。

本展では、川を通じて、我々の住む日本の国土や歴史、文化、環境といったものをどのように理解することができるか、また逆に川の見方をどのように広げることができるかが大きなテーマとなっています。

川展の本編では、東京大学の知花武佳先生による二十の区分を基に、各界(!?)の専門家を交えた座談会によって、より深く、広く、そして時には脱線しながら話が展開していくので、存分にお楽しみください。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3486.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「第12回いい川・いい川づくりワークショップ in 滋賀・京都」案内 (10/5-6 開催)



NPO 法人全国水環境交流会より、『第12回いい川・いい川づくりワークショップ in 滋賀・京都』のご案内が届きました。

■日時：2019年10月5日(土)～6日(日)

■場所：ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター) 他

■主催：いい川・いい川づくり実行委員会

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3491.html>

【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) 最新会報」紹介



RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2019年8月号) が事務局より届きました。

本号では、RRC 主催の4つの河川再生研修コース、RRC のインターンプログラムや新スタッフの紹介、また英国で開催される河川再生関連行事等が掲載されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3496.html>

【海外からの提供情報】

■「ECRR (欧州河川再生センター) ニュースレター紹介



ECRR (欧州河川再生センター) より新たに発行された「TECHNICAL Newsletter」の第一号 (2019年7月号) が ECRR 事務局より届きました。

本号では、ロシア河川再生センターからの報告、河岸植生帯の再生や自由に流れる自然河川の保全・再生の重要性、ドナウ川での河川生態、ECRR 活動報告や関連イベント等が紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3483.html>

会議・イベント案内 (2019年9月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■外来魚駆除大会 in 琵琶湖

○日時：2019年9月8日(日) 10:00 - 15:00

○主催：琵琶湖を戻す会

○場所：津田江1(北)湖岸緑地(滋賀県草津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2999.html>

■応用生態工学会 第18回 北信越現地ワークショップ in 長野

○日時：2019年9月13日(金)～14日(土)

○主催：応用生態工学会長野

○場所：信州大学繊維学部 総合研究棟 7階(長野県上田市)及び現地視察

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3008.html>

■第27回 リバーフロント研究所 研究発表会

○日時：2019年9月13日(金) 13:00 - 17:30

○主催：公益社団法人リバーフロント研究所

○場所：日本橋社会教育会館8階ホール(東京都中央区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2997.html>

■第2回山口大学・環境DNA研究センターシンポジウム～環境DNA研究の最前線と企業の取り組み～

○日時：2019年9月17日(火) 12:50～17:00

○主催：山口大学環境DNA研究センター

○場所：国際ホテル宇部(山口県宇部市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3006.html>

■応用生態工学会 第23回大会 公開シンポジウム：ここまで進んだ生態系観測技術の最前線

○日時：2019年9月29日(日) 午後

○主催：応用生態工学会

○場所：広島大学東広島キャンパス 理学研究科E棟 1F E102 講義室(広島県東広島市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2983.html>

■第12回いい川・いい川づくりワークショップ in 滋賀・京都

○日時：2019年10月5日(土)、16日(日)

○主催：いい川・いい川づくり実行委員会 他

○場所：ピアザ淡海・滋賀県立県民交流センター、コラボしが21(滋賀県大津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2995.html>

■第11回応用生態工学会全国フィールドシンポジウム in 耳川

○日時：2019年11月14日(木)～15日(金)

○主催：応用生態工学会 普及・連携委員会

○場所：宮崎県日向市 他

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2970.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

冊子等の紹介 *Publications*

■小さな自然再生サミット～できることから始めよう～ 2019 神戸大会 開催報告 (2019.2 発行)

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

・発行年月：2019年2月

・ページ数：43ページ



2019年1月26日(土)～27日(日)に神戸にて開催しました『小さな自然再生サミット 2019 神戸大会』の開催成果報告書です。

この開催報告は、サミット参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真とともに皆様にご紹介するものです。

■「できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集」(2015.3 発行)

・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問

・編著：「小さな自然再生」事例集編集委員会

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

・出版年月：2015年3月



本事例集は、小さな自然再生の実践を通じてその技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で構成される「小さな自然再生事例集編集委員会」が、小さな自然再生の全国への普及を目的として制作したものです。

■上記冊子の入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

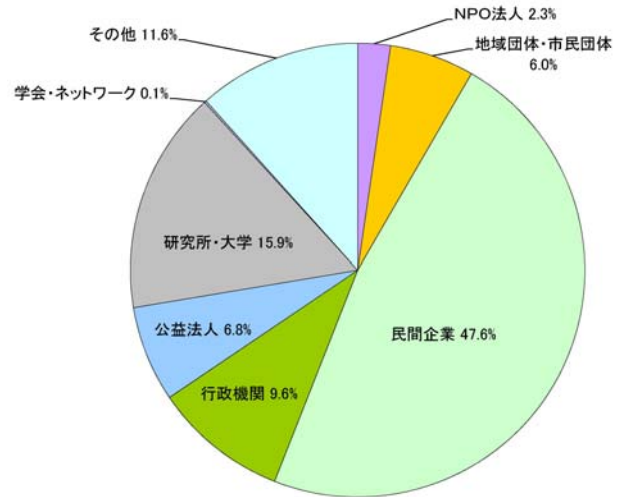
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2019 年 8 月 31 日時点の個人会員の所属構成
 (個人会員数：800 名、団体会員数：60 団体)
 ※8 月の新規入会数：個人会員 3, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内
 Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>